



会津農林事務所農業振興普及部だより

VOL. 247 (平成23年12月20日発行)

編集・発行 ■ 会津農林事務所農業振興普及部
住 所 ■ 〒965-8501
会津若松市追手町7-5

電話 ■ 農業振興課 0242-29-5303
地域農業推進課 29-5306
経営支援課 29-5308
有機農業担当 29-5317
園芸産地振興担当 29-5315

ホームページ ■ 会津農林事務所農業振興普及部で検索

福島県農林地等除染基本方針について

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、本県の農用地等は放射性物質で汚染され、作付け及び出荷の制限や風評被害などにより甚大な被害を受けていることから、早急に農用地等の除染を進める必要があります。

このため、農用地等の除染を効果的に進めるため、県では「福島県農林地等除染基本方針（農用地編）」を策定（平成23年12月5日）しましたので、除染作業を実施するにあたり参考にしてください。

1 基本方針の位置づけ

基本方針は、「放射性物質汚染対処特措法」及び「除染に関する緊急実施基本方針」に基づき、県内において実施される農用地等の除染に関して、県の基本的な考え方をまとめたもので、市町村の除染実施計画策定と除染の実施にあたっての目安とするものです。

- (1) 県内で生産される全ての農畜産物及び牧草のモニタリング等において、放射性セシウムが検出されないことを目指します。
- (2) 農用地等の除染により、近隣住民及び農業従事者の被ばくの軽減を図り、追加被ばく線量が年間1 mSv（空間線量率0.23 μ Sv/h）以下となることを目指します。

2 除染の方法

(1) 水田・畑

ア 米を作付けした市町村又は地域（会津地域）

玄米の放射性物質モニタリング検査で放射性セシウムを検出したところ	吸着資材を施用して反転耕又は深耕
玄米の放射性物質モニタリング検査で放射性セシウムが未検出のところ	吸着資材を施用して深耕又は反転耕

イ 米を作付けしなかった市町村又は地域

今年、耕起していないところ	除草後表土の削り取り、又は吸着資材を施用して反転耕・深耕
今年、耕起したところ	吸着資材を施用して反転耕又は深耕

※吸着資材：ゼオライト、バーミキュライトなど

(2) 樹園地

ア 樹体対策

粗皮削り取り及び高圧洗浄機による樹皮の洗浄等 側枝の間引きや混み合った園地の縮・間伐

イ 土壌対策

除草を行った後、表土の削り取り

(3) 牧草地

牧草の放射性物質モニタリング検査で300Bq/kgを超えた地域	牧草の剥ぎ取り、吸着資材を施用して反転耕又は深耕を行い草地を更新
牧草の放射性物質モニタリング検査で300Bq/kg以下の地域	吸着資材を施用して反転耕又は深耕を行い草地を更新



3 除染作業の留意点

除染作業にあたっては、ちりやほこりを吸い込まないようにマスクを装着するとともに、ゴム手袋や長靴等を着用してください。(星)

果樹の放射性物質低減対策

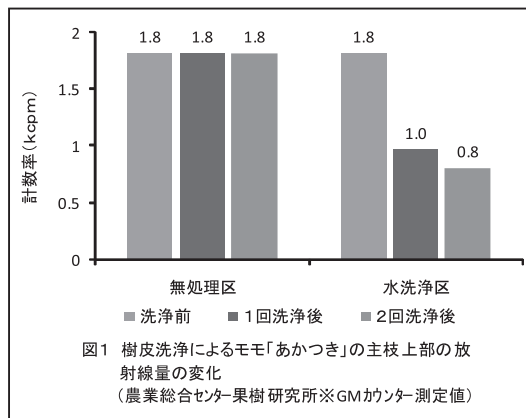
県の農林水産物に係る緊急時モニタリング検査において、果樹は野菜類等よりも多くの放射性セシウムが検出される結果がでています。この要因は、フォールダウン時に大量の放射性セシウムが樹体（主幹、主枝、枝）に付着し、そこから果実への移行が相当量あるためです。従って、果樹の除染対策は、樹体に付着した放射性セシウムをいかに除去するかが重要となります。

1 樹体の洗浄

粗皮が形成されにくい樹種等（モモ、スモモ、オウトウ、ウメおよびリンゴやナシ等の若木）で実施します。果樹研究所の試験結果によると、洗浄により汚染程度が約半分に低減します（図1）。

具体的には、高压洗浄機による洗浄（40～60気圧程度）または、SS装備の動噴を使用して洗浄します。洗浄作業は、主幹部や主枝の上部および側部を中心に実施し、主枝先端から基部、高い部位から低い部位の順序で行います（写真1）。

10aあたりの作業に要する時間、水量等は表1のとおりで、約1時間半程度で作業は終了できます。ただ、SS装備の動噴の場合、水圧が15気圧と弱いので、洗浄時間および水量が高压洗浄機の約2倍程度必要になります。



2 樹体の粗皮削り・剥ぎ

粗皮が形成され、これらを取り除くことが可能な形態をもつ果樹等（ブドウ、ナシ、リンゴ、カキ）で実施します。果樹研究所の試験結果によると、粗皮削りの実施により放射性物質による汚染程度が約80～90%減少しました（図2）。

具体的には、専用の削り器具を使用し手作業で実施するか、旋回ノズル式の高圧洗浄機（モモ水圧摘蕾機）により水圧（80気圧程度）を使って粗皮を削り取ります。また、ブドウの場合は粗皮を簡単に手で剥ぎ取ることができます。

表1 樹皮洗浄の条件と作業時間

処理本数	20本/10a
処理水圧	4～6MPa(40～60気圧)
処理水量	20～30リットル/1樹
作業時間	90分(実動時間)
必要水量	400～600リットル

注:使用機械は高压洗浄機を用いた。



写真1 樹体洗浄の様子

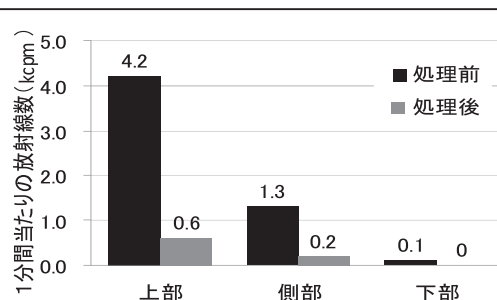


図2 ナシ「幸水」の主枝の粗皮削りと放射線量
(農業総合センター果樹研究所)
※ GMカウンターで測定

3 樹体洗浄、粗皮削り作業上の注意点

- (1) 作業時は、ちりやほこりの吸い込みや肌への付着等を防止するため、マスク、保護メガネ、雨合羽、ゴム手袋、長靴等を着用します。
- (2) 作業後は、手足、顔等の露出部分を洗浄し、服を着替えるなどして屋内にちりやほこりを持ち込まないように注意します。
- (3) 高所作業が必須となるので、作業には十分注意し安全確保に留意する。
- (4) 生育期間中は除去物質の葉や果実への飛散が懸念されるため、越冬害虫の耕種的防除と合わせ落葉期以降に実施します。

- (5) 高圧洗浄機で粗皮剥ぎを行う場合、粗皮剥ぎ時の水圧で粗皮が形成されていない若い枝幹部まで処理すると、生きた樹皮を傷つける場合があるので注意します。

4 剥いだ樹皮等の処理

剥いだ樹皮等が樹冠下に落下しても土壤中の放射性セシウムが大幅に上昇することはありません。剥いだ樹皮を、園外に排出し廃棄物として処分する場合は、処理前に樹冠下にブルーシート等を敷いて剥いだ粗皮を集め、処理方法が明らかになるまで園地の一カ所で一時保管してください。

5 除染のための整枝・剪定

放射性物質の降下時に樹上に存在していた旧年枝については、今年伸びた枝よりも高い濃度で放射性セシウムが付着していることが果樹研究所の調査で明らかになっています。このため、古い枝の間引き剪定を中心に実施し、樹体上の放射性セシウム濃度を少しでも低減させてください。具体的手法は、下記のとおりです。

- (1) 植栽距離が狭く、混み合っている樹園地では、積極的に縮・間伐を実施し、放射性物質の付着した樹体を除去します。
- (2) 樹高が高い樹では、放射性セシウム濃度が高いと思われる樹冠上部の枝を除去するため、積極的な低樹高化を図り、計画的に樹高を切り下げます(図3)。
- (3) 骨格枝(主枝や垂主枝など)が多い樹では、骨格枝を積極的に間引きします。
- (4) 大型化した側枝は、間引き剪定により積極的に更新します。
- (5) 側枝は、各樹種の特長や枝の着生状況により、適宜間引き剪定や切り戻し剪定により積極的に更新します。
- (6) 立木の樹種では、放射性物質が付着した旧枝と葉や果実の接触をできるだけ回避するため、枝が重ならないよう側枝を配置します。

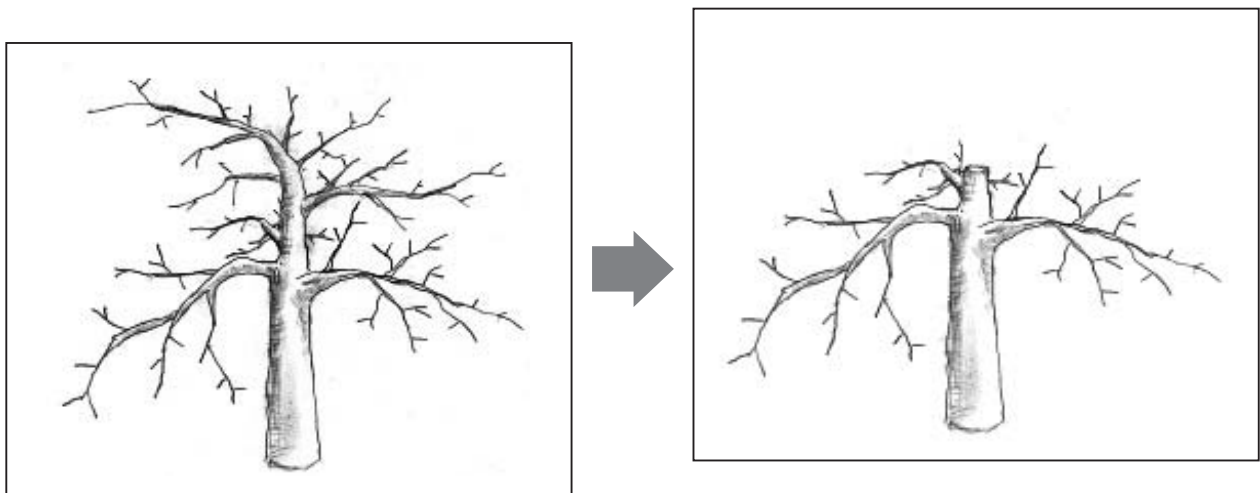


図3 樹高の切り下げ(柿の低樹高化の例)

6 整枝・剪定作業上の注意点

- (1) 放射性物質が付着または含まれる剪定枝を野焼きすると、灰などとともに放射性物質が周囲に拡散する可能性があるため、野焼きは、極力控えてください。
- (2) 剪定枝を一般廃棄物として焼却施設等での処分を希望する場合、各自治体の焼却施設等に確認が必要です。処分が困難な場合は、処分方法が明らかになるまで園地の一部等を利用し、一か所に集めて一時保管をしてください。
- (3) 剪定枝を一時保管する際は、集めた剪定枝から放射性物質が飛散したり、降水により地下に浸透しないよう防水シートで覆う等適切に管理してください。
- (4) 剪定枝堆肥等は、400Bq/kg以下であることが確認されれば利用可能となります。(大高)

しっかりした食感の「天のつぶ」を栽培しましょう！

「天のつぶ」は福島県農業試験場（現 福島県農業総合センター）において、熟期は中生晩で耐倒伏性が強く、玄米品質が良好で良食味品種を目指して育成された福島県オリジナル品種です。

管内では、会津若松市の高野、北会津、河東の3地区で展示ほとして栽培し、10a当たり510～630kgの実収で、品質は良好でした。

本年産米は県内の大手スーパーやJA直売所等で、11月上旬より販売されていますが、購入し食べた人からは「米粒がしっかりして美味しい」という評価を頂いています。

平成24年産用の「天のつぶ」の種子は県内種子場にて確保していますので、「倒したくない」「良食味品種」を作りたいとお考えの方は、JAや集荷業者に種子を早めにご注文ください。(小森)



「第7回会津地方アスパラガス生産振興大会」開催！

去る10月25日（火）、会津農業共済組合を会場に「第7回会津地方アスパラガス生産振興大会」が開催され、生産者や関係者など約220名が参加しました。本年は、東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の飛散に対する農業関連の対策を発信するため、例年より1ヵ月早い開催となりました。

本大会では、主催者あいさつに続き、「日本の農業の現状と展望」と題して、ミラクルシード株式会社代表取締役である成日慶（ソン イルキョン）氏より、農産物の経営・販売に対する戦略的な取り組みについて講演をいただきました。



生産振興大会 開会時の様子

続いて、県農林水産部農業振興課の木村昭則主任主査より、「放射性物質の農作物への影響と対策について」と題して、放射性物質に関する基礎知識から農作業時の対策、低減技術の開発など幅広く講演をいただきました。

情勢報告では、当所園芸産地振興担当から平成23年の病害虫の発生状況および褐斑病対策について、また、JA全農福島会津宮農事業所から日射制御型自動灌水装置についてそれぞれ報告がありました。

本大会を契機として、本県農業の復興に向けて「会津アスパラガス」の更なる産地振興が期待されます。(皆川)

暖地の栽培技術を学ぶトルコギキョウセミナーを開催！

今年で5回目となる「会津地方トルコギキョウ栽培技術セミナー」を平成23年11月17日（木）に会津大学で開催しました。今回は、夏の暑さを克服して栽培している暖地産地の技術を学ぶことで、近年の暑さにどう対処するかを考え直すことを目的としました。

まず、県農業総合センター作物園芸部花き科の宗方宏之氏より県で得られたトルコギキョウに関する研究成果と、本県で今年取り組んだトルコギキョウの全日本花卉品種審査会の結果、さらにトルコギキョウと組み合わせ可能な花きについて紹介しました。

その後、広島県立総合技術研究所農業技術センターの福島啓吾氏に「吸水種子の湿潤低温処理を利用したトルコギキョウの育苗技術」と題した基調講演をいただきました。高温期でもロゼットさせずに茎の伸長を促進するためには、吸水種子の湿潤低温処理（種子冷蔵処理）が必要であることをわかりやすく説明していただきました。また、育苗前の培土の詰め方など、最も基本的な技術ができていないことを気づかせていただきました。

福島氏の「当たり前のことを当たり前にやれば、会津の夏は必ず克服できる」との言葉には、参加者一同、「来年はぜひ基本技術を見直して、暑さに負けない栽培をやってやろう」という気持ちにさせられました。(室谷)



技術セミナー 基調講演の様子